

如何にして美しく圓滿なる家庭は作らる可きか

白山生

標題の様な質問が二三週間前に記者の机上に表はれた直ちに返書を出さうと思ふて筆を執つては見たが、いや／＼斯様な質問は決して此質問者ばかりのものではない、恐らくは方今妙齡な婦人方の胸中には誰れにも必ず存するに違ひない、して見れば是は此本人へのみ返事するよりは一層の事誌上で一般に述べた方がよからうと思ひ直して斯くは餘白を拜借するに致しました次第です、應答が手間取れて御待ち遠でしたらうが斯様な次第ですから悪しからず御了承を願ひます。

扱て本文に取り掛ります、一体美しいとか美しくないとか云ふことは感情上の問題で誠に漠としたものであります、此漠とした感情を標的にして此標的に適ふ様な家庭を作らうと云ふのですから問題は頗る困難なもので殆んど議論什悪いもので

あります、何故と云ふに發問者の美しいと云ふ觀念と記者の美しいと認むる所のものとは果して同じであるか何うかい第一怪しいものです、從つて記者の意見が果して質問者の望む所のものを表現するや否や六敷いものです。

又問題中に圓滿なる家庭と云ふ注文であるが是が又頗る曖昧な言葉であつて其中に何々の箇條を含むか殆んど正確に定めがたいものであります、人は圓滿と云ふ言葉を能くつかひますが、併し此意味を善くとれば誠に結構なことで何一つ申分のないこととなるし、悪くとれば御多分に漏れない、至極凡様なこととなるのであります、あの人は圓滿な人であるとの評は能く個人の評にあることではあるが、之を善くとつて考へれば申分のない君子と見えるし、悪くとれば八方美人で捕へ所のない極めて要領を得ぬ人と云ふことにも取れる、斯様な譯で圓滿と云ふ言葉も美しいと云ふ言葉も其意味が頗る曖昧で之に向つての答辨は甚だ困難を感ずる次第であります、併しこんなことを云つて居つても果てしがたいから此處には家族間に平和

な交際が維持され其生活上には夫れ々々不足を云はないで濟むと云ふ極めて平凡な家庭生活に就いて説明して見ませう、是が或る意味に於ては最も美はしく最も圓滿な家庭であります、切て斯様に平和で満足な家庭と云ふものが成り立つには次の様な條件が是非とも必要となる譯です。

第一 家族は相互に意志の充分疎通せんことを要す、お互に心の知れ合つて居ることは平和を維持するに極めて必要のものです。

第二 家族は相互に最良の家族たらんことを心掛けよ、主人は最良の主人たらんことを心掛け、主婦は最良の主婦たらんことを心掛け、老人は最良の老人たらんことを心掛けて行つたらば家に平和の來たらざらんとするも得可からずと云ふ譯だらうと思ひます。

第三 經濟に於て成功せよ、家の暮し向きが不如意の中は何んなに心掛けても圓滿な家庭は望めるものではありませぬ。衣食足つて禮節を知る、とは實に能く云つたものです、世の中は口先きばかりではたとひ親子の間でも濟むものではありませ

ん何事にわれ、お月にお祝を仕合ふとか悔みを云ひ合ふとか云ふ様なことでも之を實行に表はすに直に金を要します、金なくしては義理も行へたものではありませぬ。故に平和で満足な家庭を作らうとするには何しても經濟に於て成功しなればなりませぬ、經濟に於て成功すると云ふのは大金持になれと云ふのではありませぬ、勿論金と云ふことは直に其分量をも意味しては居ますが、私の云ふ經濟と云ふのは収入と支出との調和と云ふことです、即ち相當の収入があるなら夫れに應じた支出をして行きさへすれば家計は何等の心配もなく極めて安樂に生活することが出來、従つて家族の各自は満足して行くことが出來ますが、若し之に反して支出が収入を超すとかが若しくば從來の家庭を維持する丈の収入がないとか云ふときには逆も安心な家庭は作れるものではありませぬ、斯る場合には速かに改造して家庭を収入の範圍内で生活し得る様にしなければなりません。

第四 主婦の鍊腕を要す、以上の三箇條之を能く實行すれば家庭の平和と満足とは容易に得らるゝ

こと受合で、即ち質問者の所謂美しく圓滿なる家庭も現出せらるゝ譯ではあるが、併し此處に一つの困難があると云ふのは以上の三箇條は何れも家族が夫れ々々各自に自ら進んで實行しなければならぬもので若し家族の中に人は何うでもよし自分さへ能くばと云ふ様なものがあつては到底行へた話ではないのです、所で家族の各自が斯様な考を持つと云ふ様な家は何處にありませうか、まゝ千軒に一軒あるかなしでせう、して見ると美しき家庭や圓滿な家庭は逆も實現出来ないことになりはしますまいか、此困難を救つて家族をして皆右の三ヶ條を自然と實行する様に心掛けさせる迄に導く所の人は誰かと云ふと主婦其人でありませ、是に於て主婦の責任は實に重いものと云はねばなりません、主婦が其家の家風や家族の心持を導いて斯様に迄することが出来ないとするれば其家の美しくなるか圓滿にならないかは自然の成り行き次第で善くなることもある代り悪くなることもあつて主婦の力は別段大した功能もないものとなりませ、家庭を自然の成り行きに任すと云ふ以上は寒

い荒びた風が吹がうが、暖き春風が吹かうが一向頓着しないといふことになつて極めて殺風景なものになりませうから誰れも之を望む人はありません、既に家庭を何うにか理想通りにしたいといふれば夫は一に主婦の手腕内にあること以上述べたる通りであります、つまり美しき家庭とか圓滿な家庭とか云ふものは自然の成り行きで出来るものか然らば非常にえらい主婦の力に依つて出来るものであります、質問者は果して何れを採る御考にや質問の出た所で見ると無論自ら進んで美しき家庭圓滿なる家庭を作つて見たいと云ふ御考の様に見えるが、若し果して然りとせば宜しく貴嬢は大奮發してえらい婦人となることを第一に心掛けて全家族の心を悉く己れの配下に屈伏せしむる覺悟がなければならぬ。今左に參考の爲に其えらい主婦たるに必要な條件を説明して見やう、夫れは外でもない何れの方面も役に立つこと少くも通常人の二倍なりと云ふことである、少くも人の二倍は働く程でなければ決して家族を配下に引き廻はすことは出来ない、口先き丈で下女や家族を引

き廻さうと云つたつてそんなことで引き廻されて居る人間は今日世の中にはあるものでない。兎角今日の女學校出のお奥さんは口が達者で立ち働に掛けては零である、こんなことで人が云ふことを聞くものか、女の仕事である所の料理裁縫は勿論のこと育児經濟交際上の事迄も悉く自ら遣つてのけて然も紳々として餘裕ありと云ふ風でなければ逆も家族の心を收攬し之を感化し誘導すること出来ぬ、若し自分には是丈の力がないと思ふならば今日より直に勉強して其力を養ふことに勉めなければならぬ、若し又勉強しても斯様にえらいものには到底なれぬと云ふ弱點があるならば退いて己れの身を慎み全力を盡して唯々家族の爲め夫の爲め身を粉にして働いて少しでも家族の幸福を進めることが出来たらば獨り心に悦びて神なり佛なりに向つて己が誠意の幾分徴ありしことを感謝しなればならぬ、勿論自分の功に誇り高ぶる様な振舞は毛頭あつてはならぬ、そして益々精を出して家族の爲め夫の爲めに立ち働くのを唯一の樂しみとし満足としなければならぬ、斯様にして誠

心誠意己を盡して忠實に働いたならば何時かは幸福な時に遇ふかも知れない、併し世の中は決して單純ではない、偶然の不幸や災難は何處にもあるから假令斯様に己を盡して働いて居ても一生不和と不満足との間に終る人がないとも限らぬ、万一斯様の場合に遭遇ふことがあつたら其は千載の一遇では非がないとあきらめて己れは依相然變らず忠實に盡くすより外に途はないものである是が主婦として又家族として取る唯一の途であらうと思ふ。

此外家族同志が相互に意志を疎通する爲には如何なる方法を探る可きか又家族は夫れ如何なる心得を持つ可きか、老人は如何に行ふ可きか主人は如何に振舞ふ可きか論じ來れば數限りもなく色々な注意や心得が出来るでせう、其他家庭の設備や衣服飲食の事も實地に論じたら限りがないでせうが何れも主婦の腕前に依頼す可きものですから茲には一々述べますまい。

要するに質問者の要求する美しく圓滿なる家庭と云ふものは或度迄は主婦の働き次第腕前次第で出

来るものですが、夫れ以上は逆も人力では出来な
 いものです、人力で出来ない處は神や佛に任すと
 して人力の及ぶ丈は力をつくし精を出して己れの
 出来る限り忠實に立働くことが一般に主婦たるも
 の、心掛く可きことであります、以上は予が家庭
 に関する意見の一端であります、果して質問者の
 意を得たか何うかわかりませんが思ひ付いたまゝ
 を書き付けました、尙御不審な所があらば重ねて
 御質問下さい。

女子の四十五歳

下等動物の或種のものでは、一と度び生殖の機能を管んで數多の
 子女を産んで仕舞へば、生涯の能事既に全く終りを告げて、直ち
 に死滅するものもあるが、人類に在ては子女を生むと云ふのみで
 は、未だ婦人の任務の全部が盡くされてゐない。従つて人類生涯
 の過半は所謂「子持ち期」と云べきでない、少くとも女子の二十
 歳から四十五歳迄が「子持ち期」で、夫れより以前は修養期、夫
 れより以後は他の仕事の完成期であります。

實を云へば婦人の四十五歳は寧ろ身の自由を得たる時、換言すれ
 ば最早や子女を生み止めた時で、これからホットトと息して、更に
 奮進し、若年頃からの或宿望を成就させ、中年頃からの或經驗や
 理想を實現せしむべきであります。身に之を實行し自ら之を實現

させる事が出来なければ、セメテは其子女達に己が精神を吹きこ
 んで、心身共に健全なる新國民を造り出すべきであります。

向上活動の壯快談は青春の焰のもゆる血氣の壯夫には適しよう、
 サレド既に老ひ果し身、若くは老衰に傾ける我等には餘りに遲き
 に失せりと云ひ給ふか。否とよ老の身に取つても決して遅い事は
 無いカトーは八十歳にして、ギリシヤ語を學んだ、ソホクレスは八
 十路を越えて雄篇「オーシプス」を書いた、シモニテスが儂鯉の
 賞讃の辭を負つて逝つたのは八十歳以上である、テオフラタスが
 「人の品性」を書き始めたのは九十歳、チャイサーが有名な「カン
 タバリー」物語りを書いたのは六十歳、ゲーテは終焉まで奮勵し
 て遂に「ファウスト」を完成した。元より斯の如き人々は異數で
 はあるが、然かも彼等は彼等の生命の流れが其極地に入らん迄で
 には、尙ほ甚だ遑遑であるのか示すものである。

寧ろ、手を懐るにして死を待つのは、生きながら死の生活をして
 居るのである。死ぬ迄働くと云ふのは決して厭ふべきでない。
 幾多の社會の新事業は、實歴經驗を重ねた圓滿完全なる諸姉に向
 て其手を待つことが切りである。四十餘年の早霜を積んで産み出
 した諸姉の豊富なる經驗と、圓熟なる知慮才能とは極めて貴重
 なる寶である。之れを以て花嫁の呵責に濫用するのは餘りに惜しむ
 べき事である。ドーカ之れを以て國家社會のために廣く資益した
 い。女子の四十五歳は正に皇天が機會を與へて、婦人の奮起を促
 すの時ではあるまいか。滿天下の婦人諸君、願くば一家内に踞踞
 して平地に波瀾を起す様な愚人の眞似せず、大天下の婦人として
 理想の建造に資益せられよ。(衛生雜誌)